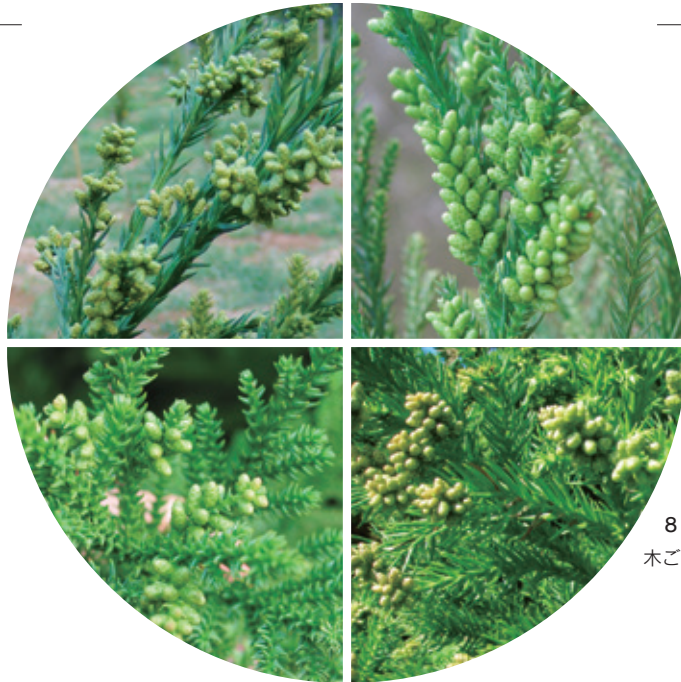


スギの雄花は夏につく



文と写真◎伊原 徳子 Ihara Tokuko

樹木分子遺伝研究領域

8月のスギ雄花

木ごとに個性がみられる。

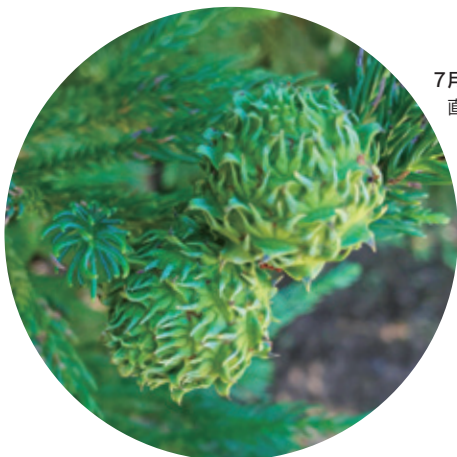
スギにも花言葉があることをご存知でしょうか？「雄大」です。スギは雄花

と雌花をつける樹木で、小さいうちは花をつけませんが、樹齢10年を過ぎるころになると、しだいに花をつけるようになります。花粉が飛び始めるのは春先です。しかし、雄花の成長は前年の夏にすでに始まっています。

雄花と雌花は同時に成長を始めるのではなく、梅雨があけて暑くなり始めると、まず雄花が付き始め、8月ごろには枝先に雄花が目立つようになります。このころの雄花はきれいな薄い緑色をしています。スギの雄花の量は年によってちがいます。夏の気温が高く、日照時間が長い年は雄花が多い傾向があるといわれています。ただ、花をたくさんつけるには、その分のエネルギーの蓄えが必要なので、2年続けて大量に雄花をつけることはあまりないようです。

また、人間の顔が一人ひとりちがうように、スギも別の種子に由来する木は、それぞれちがった個性を持っています。雄花のつき方も木によって大きく異なります。雄花の中では9月下旬ごろから花粉が作られ始め、色もしだいに黄褐色へと変化していきます。そして、冬を越え、暖かくなり始めると花粉を飛ばすようになります。

風によって花粉は雌花へと運ばれますが、被子植物とは異なり針葉樹の受精はとてもゆっくりとしています。スギでは受精から受精まで3カ月ほどかかり、成熟した種子ができるのは秋ごろです。雄花が作られ始めて1年以上もかかるのです。「雄大」なスギも、小さな花粉の長い旅を経て生まれた1粒の種子から始まり、その世代を生きて、次の世代を作りだしていくのです。♣



7月の球果

直径3cmほど。未熟な種子が50~70個ほど詰まっている(写真下)。



「花」の定義には諸説ありますが、わかりやすくするため、ここでは裸子植物のスギにも花という言葉を使いました。